

3. カテゴリー別

カテゴリー	前年比
メンズコスメティックス	100.5%
ベースメイク	100.2%
ボディケア	100.2%
スキンケア	99.8%
ポイントメイク	99.3%
ヘアケア・ヘアメイク	99.1%
フレグランス	96.4%

メンズコスメティックス、ベースメイク、ボディケアの3カテゴリーが、微増ながら前年を上回った。メンズコスメティックスでは、スカルプケア、メンズフェイスクリーム、メンズシャンプー・リンスが実績を伸ばした。ベースメイクでは、メイクアップベースの毛穴対応商品が好調だった。ボディケアでは、ライフスタイル提案型ブランドが人気を集めた。

一方、スキンケアは化粧水と美容液、ポイントメイクはリップカラーがそれぞれ実績を落としたこと、ヘアケア・ヘアメイクはヘアトリートメント以外の不振、フレグランスは並行輸入品に需要を奪われたことなどが、前年を下回る要因となった。

4. 販売形態別

販売形態	構成比
カウンセリング	63.7%
セルフセレクト	36.3%

カウンセリングは、ヘアケアやボディケアでライフスタイル提案型ブランドが実績を伸ばしたことなどで、市場が拡大した。

セルフセレクトは、高い構成比を占めるインバスヘアケアにおいて需要が詰め替え用へシフトしたことから単価が下落するなど、消費者の低価格志向によって市場が縮小した。

5. チャネル別

主なチャネル	構成比
ドラッグストア	27.4%
量販店	13.3%
化粧品店、薬局・薬店	12.8%
通信販売	10.7%
訪問販売	9.7%
百貨店	9.2%

ドラッグストアと通信販売が構成比を拡大させた。ドラッグストアは、カウンセリング、セルフセレクト共に主力チャネルとなっており、消費者の低価格志向から需要を集めた。通信販売は全般的に好調で、中でもスキンケアやメンズコスメティックスのスカルプケアが大幅に増加した。

一方、量販店や化粧品店は、ドラッグストアに需要が流れ実績を落とした。訪問販売は、高価格帯品の拡販や、サロンへの展開によって業績回復を目指しているが、減少に歯止めがかからなかった。百貨店は、高価格帯のスキンケアとフレグランスが好調だったものの、それ以外のカテゴリーが来客数減少の影響を受け不振だった。

<消費者トレンド調査>

[調査概要]

調査テーマ：化粧品の市場ニーズ動向

調査期間：2009年6月12日～15日

調査対象：メイクアップを持っている20～49歳の女性

調査方法：インターネット調査

サンプル構成：各年齢層(20～24歳、25～29歳、30～34歳、35～39歳、40～44歳、45～49歳)80人、合計480人

1. 美容情報の入手先（マルチアンサー）

美容情報の入手先を尋ねたところ、「ドラッグストア」が51.9%でトップとなった。以下、「一般雑誌」が35.6%、「化粧品の口コミサイト」が34.8%、「知人、友人」が31.7%、「TV番組」が29.0%となった。ドラッグストアは前述したチャンネル別販売構成比においても最も高い割合を占めており、化粧品市場における存在感の高さが伺える。

年代別に見ると、「ドラッグストア」はいずれの年代でもトップ回答であった。20代前半で「ドラッグストア」が66.3%、20代後半で「化粧品の口コミサイト」が45.0%と、他年代に比べ高い結果となった。

2. スキンケア、メイクアップの購入金額の変化（シングルアンサー）

2008年秋以降の景気後退の中、この1年間でスキンケア、メイクアップの購入金額の変化の有無を尋ねたところ「変化なし」がトップで、スキンケアでは56.3%、メイクアップでは60.0%となった。「かなり増えた」と「やや増えた」の合計がスキンケアでは17.9%、メイクアップでは9.3%、一方、「かなり減った」と「やや減った」の合計がスキンケアでは25.9%、メイクアップでは30.6%となった。スキンケア、メイクアップとも購入金額の減少した人数が増加した人数を上回り、景気後退は購買行動にも影響を与えていることが伺える。また、スキンケアよりもメイクアップの方がその影響は大きいと言える。

年代別に見ると、スキンケア、メイクアップ共に20代前半が他の年代よりも「やや増えた」「かなり増えた」の割合が高い結果となった。

以上

<調査対象>

スキンケア、フレグランス、ヘアケア・ヘアメイク、メンズコスメティックス、ベースメイク、ポイントメイク、ボディケアの全7カテゴリー

<調査方法>

富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング調査

<調査期間>

2009年5月～6月

資料タイトル : 「化粧品マーケティング要覧2009 総括編」

体 裁 : A4判 246頁

価 格 : 100,000円 (税込み105,000円)

調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 第二事業部 Cosmetic Div.

発 行 所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL:03-3664-5811 (代) FAX:03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。

URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/> <https://www.fuji-keizai.co.jp/>